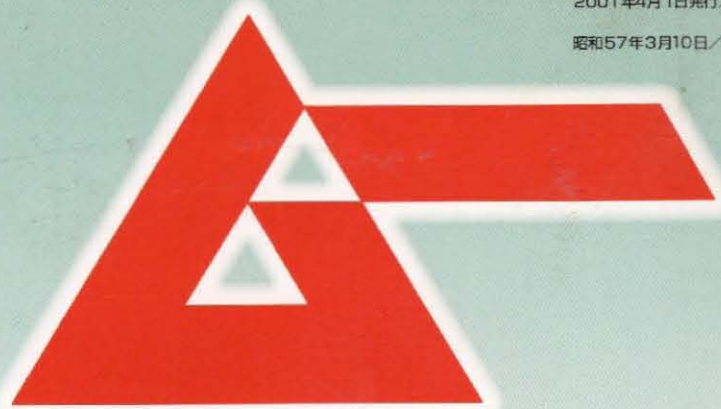


SUPER MYSTERY
MAGAZINE
MU

世界の謎と不思議に
挑戦する

4 月号
No.245

2001年4月1日発行/毎月1回1日発行
第23巻第4号
昭和57年3月10日/第3種郵便物認可



総力特集 ギリシア神話に隠されたアトランティス文明復興の鍵

アレクサンダー大王は 日本を目指した!!

定価
650yen
(税込)

今、若者の脳が死にかけている

アメリカでは犯罪捜査にも応用! リバース・スピーチとは何か
会話を逆再生すると無意識の本音が現れる!?

驚愕! 死体が生き返った!!

禁断のロシア

「人体蘇生実験」を追う!!

恐怖の怪奇現象を追う迫真のルポ

イタリア幽霊城奇談

ヒトゲノム解読で見えた
人間の正体

特別
とじ込み
付録
アレクサンダー大王の
世界帝国地図

潜入!!
これが謎の中国
大ピラミッド王国だ!



2001
4
月
月
刊

総力特集II
アレクサンダー大王は日本を目指した
第2号

米を作れば作るほど
自然がどんどん甦る!?

21世紀の農法

自然耕

農法

ホタル、ドジョウ、トンボ、タニシ、
そして白鳥やサギやカモ。
町からも田からも消えたと思われていた
生き物が戻ってきた田がある。
自然耕栽培と呼ばれる、
田んぼを耕さない農法の「秘密」を追った。

田んぼにメダカや ホタルが戻ってきた

思えばつい30年ほど前までは、
どこの小川にも、メダカがすいすい
と泳いでいたものだ。このメダ

カ、実は水質のよさを示す魚とも
いわれている。

ところが、高度経済成長時代を
経て川が整備され、そこへ生活排
水や工場の汚水が流れ込んだ結果、
どこの川からもメダカは姿を消し

てしまった。

それは、市街地に限ったことで
はない。農村でも農業や化学肥料
が大量に使用され、農業用水の水
路はコンクリートで固められ、小
動物が生息できる場所はなくなっ

た。もちろん、メダカもいなくな
ってしまったのである。

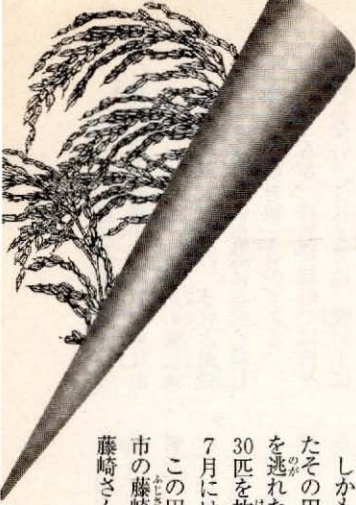
農業散布に加えてメダカの絶滅
に拍車をかけたのは、土地改良事
業である。確かに田は整備され、
田に入れる水を簡単に調整できる

ようにはなった。しかしこれによ
って、水を保持し、小動物を長年
にわたって育んできた田の機能が
失われてしまった。プランクトン

や魚のすみかであった土の水路が
コンクリートと化し、急速な流れ

↓自然耕農法の稲穂は、籾の数が
130から180と通常の5割増だ。





↑(上)宮城県田尻町の田に降りたマガモ。(中)茨城県稲敷郡の田の水路の近くに発生したタニシ。(下)千葉県佐原市の田で繁殖したメダカの大群。自然耕農法の田には自然の生態系が戻り、四季おりおりに豊かな表情を見せてくれる。

をつくり、すべてを押し流してしまつたのだ。

また、田の地下にパイプを通して、水を排出するシステムがつくられた。これによって、水を介して行き来していた小動物の生命が、分断されることになった。

かつては土の水路に植物が繁り、田にも水路にもメダカやドジョウ

がいた。カエルの姿も見え、ホタルも飛び交っていたのである。それがわずか30年で激変したのだ。

そして1999年、ついにメダカは絶滅の危機にある生き物として、レッドデータブックに掲載されるにいたつた。

ところが、このメダカが千葉県佐原市の田で復活したのである。

しかも、田植えをし、水を入れたその田に、かろうじて地盤整備を逃れた近くの水路にいたメダカ30匹を放つたところ、3か月後の7月には、3万匹にまで増えた。

この田の持ち主は、千葉県佐原市の藤崎芳秀さん(61)である。藤崎さんの田では「自然耕栽培」、

別名「不耕栽培」と呼ばれる独自の稲の栽培方法がとられている。

この自然耕栽培は、農家の岩澤信夫さん(68)が実験的に始め、体系化したもので、現在は岩澤さん自身によって、日本各地の農家に農業指導が行われている。

前述の藤崎さんの田では、メダカが繁殖したばかりではない。タニシもドジョウもカエルもいれば、トンボも飛び交う。サギもツバメもやってくる。小動物の生命があふれかえっているのだ。

筆者がこの自然耕栽培の田を知ったのは、もう5年も前になる。千葉県成田市の近く、茨城県稲敷郡の山本太一さん(68)の田を見

ると、周囲の田とは歴然と違っていた。稲の緑の濃さが違う。茎が太い。穂の実りが多く、垂れ方が深い。そして稲穂のまわりには、無数のトンボが飛び交っている。稲を掻きかけると、クモやカエルがいる。水の中にはタニシがいる。それも半端な数ではない。まるで砂利を敷きつめたように、びっしりという。ザリガニもいた。このザリガニが、またでかい。10センチ以上あり、まるまるとしていて、すべてが驚きだった。それまで田は何度もお目にかかってきたが、こんな光景は初めてだった。

米づくりの現場では、今や当たり前のように除草剤や殺菌剤が散りまわっている。しかし、藤崎さんも山本さんも、そうしたものをいっさい使用していない。それにしても、無農薬の田で米をつくるのはほかにあるが、これほど小動物があふれかえる田は、見たことがない。

また、この田でとれた米はしっかりとっていて、オニギリにして冷めてからも味がある。こんな米を作ることのできる自然耕栽培とは、いったいどのようなものなのか。

★ 耕さない田んぼに 直接苗を植える

自然耕栽培には、従来の田とは違うことがいくつもあつた。そのひとつは、「不耕起」という名が示すとおり、田を耕さないで苗を植えることである。簡単なように聞こえるかもしれないが、これは大変なことだ。田も畑も、耕すことによって土がよくなると思われている。それをしないのだから、そもそも日本の稲作では、苗床で育てた苗を、耕した田に植えかえるという作業が行われる。この過程を経ず、初を直接田にまくと、根が出たときに苗が浮きあがりやすくなり、地中に根を張れず、水に流されてしまう可能性がある。それで一度苗まで育てて、これを田に植えかえるのである。

一般には、稲刈りが終わったら、秋に1度田を耕す。そして春にもう1回。さらに、田植えの前に水を入れて耕し、荒代、本代と最低でも4回、多い農家は5回も耕し、ようやく苗を植えるのである。

ところが、自然耕栽培では田を耕さない。これまでは、硬い土に根を張るはずがないと思われていたのだが、その常識を180度変えてしまった。

自然耕栽培の田を春に見に行く



と、稲の根が残ったままで、一見荒れた草原のようだ。ほかの田が耕され、土が掘り返されて整然としているのとは、対照的である。自然耕栽培では、残った稲の株と株の間に切りこみを入れて苗を植え、これを土で固定するのである。現在では、土をカッターで切りこみ、そこに苗を植え、まわりの土でぎゅつと押さえる、専用の機械も開発されている。専用の苗を直接、土に植えこむ方法を

↑一般の2.5葉の苗から育った稲(左)と、5葉の苗の自然耕農法の稲(右)。根に注目。



↑自然耕農法の田には、福島県の棚倉から出土したという土を入れる。この土は海底から隆起したもので、ミネラルなどを豊富に含んでいる。

苗を直接、土に植えこむ方法を

前出の藤崎さんが試したのは、15年前のことである。「稲は丈夫だから、土に直接植えても育つはずだと、岩澤さんいわれました。実は私の田は、機械では耕せない場所が四隅にありました。そこで、最初の実験では、その耕せない場所に棒で穴をあけて、直接苗を植えてみたのです。すると、これが丈夫に育つ。茎も太くなるし、根が真っ白で多かったです。初もたくさんついて、収穫が増えた。これまでに見たこともない稲が育ちました。それで翌年、田の一部を自然耕栽培にしました。当時は化学肥料を併用していたのですが、肥料を入れると穂がどんどん大きくなって、米の量も増え

ました。これは凄いい、ということになった。翌年には、もうトンボが出てきました。いずれは、化学肥料も農薬も使わないようにすることが目的だったのです」

常識をくつがえす スバルタ式苗づくり

自然耕栽培の利点のひとつは、田を耕さないことによつて、そこに眠っている雑草の種をむやみに刺激しないということだ。また、丈夫な稲を中心に育てるから、稲の勢力が強くなり、雑草がそれに押されて繁殖できなくなる。だから、除草剤を使用する必要がない。もうひとつ、自然耕栽培がほかの田と決定的に違うのは、苗作りである。苗は通常、機械で植えやすいよう、カートリッジに入るような形状に育てられる。自然耕栽培の発案者である岩澤さんは、この苗の育て方を変えた。それに当たっては、東北地方で起こった冷害が、大きなヒントになったという。

その冷害が起こったとき、苗を機械で植えた田では、稲がほぼ全滅の状態だった。ところが、ある山村の稲の一部は、冷害にやられ

なかった。その田は、苗作りの方法が異なっていたのである。岩澤さんは語る。

「戦後の稲づくりは、田植え用の機械に入るよう、葉が2・5枚ついた苗を使います。20センチ以上の大きさの苗だと、機械に入らないからです。ところが昔は、葉が5枚で30センチくらいい大きさの苗を使ったものです」

また、通常の田植えでは、苗を密植する。これは、機械で植えるときに苗が流れたり、うまく根がつかないことがあるからだ。

そのような小さい苗は弱いから、窒素肥料を足さなければならぬし、根も深くは張らない。だから害虫にやられないよう、農薬に頼らざるをえなくなる。

農薬を使うと、それに対する害虫の抵抗力が増し、さらに農薬が必要になる。害虫を食べるトンボなどの天敵は害虫より数が少なく、しかも農薬に弱い。だから農薬を一度使いはじめると、悪循環に陥



↑自然耕農法の考案者・岩澤信夫さん。1932年、千葉県成田市生まれ。

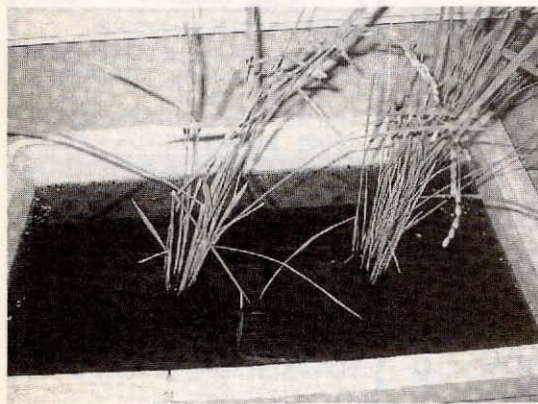


る。これは、よく知られている。岩澤さんは、こうした状況にある苗作りを昔に戻した。



↑(上) 株を残したまま自然耕農法の田は、冬でも緑が残っている。(下) 夏場、田の中に大量発生したサヤミドロ。これが生態系復活に大きな役割を果たしている。

「実は、この5枚の葉に意味がある。下の2・5枚は栄養を根に送り、上の2・5枚は光合成を行うという役割を担っていたのです」
通常の場合、苗は農家で作らずに、農協から購入する。この苗は、籾を摂氏48度の環境に置き、48時間間で発芽させて、田植えの機械に合うようにしたものだ。
岩澤さんが採用したのは、自ら「スパルタ式」と呼ぶ低温での苗



↑自然耕農法の苗を発泡スチロールに入れた小型のピオトープ。これにサヤミドロと酸素が供給され、水も浄化されて、メダカが増える。

この苗作りは、機械化された今までの苗作りの常識をひっくり返すものだった。外気で育つわけがないと、最初はほとんど相手にさえ、5葉になるまで育てる。
この自然耕栽培の稲は、その後



れなかったという。

しかし、岩澤さんには「北海道から沖繩にかけての広い地域で育つ『稲』という植物には、それだけの生命力が秘められているはずだ」という確信があった。東北の冷害の一件も、大きなヒントになり、実験開始にはずみがついた。

案の定、稲は本来の生命力を引き出され、根をどんどん深く張っていった。しかも、過剰な肥料を与えられないために、自ら栄養を取り込むべく、どんどん根を太くしていった。

この自然耕栽培の稲は、その後冷害が起こったときも、ほとんど害を受けなかったのだ。

「自然耕栽培の稲は、どうやら自然を感じする力を持っているらしい。冷害にやられたとき、ほかの田では、ほとんど穂が実りませんでした。ところが自然耕の稲は、冷害が来る前に花を咲かせ、受精して、冷害をうまく回避しました。遺伝子レベルで、彼らは生き残る術を知っているのではないかと思っています」

田に残した藁が 生命の礎になる

もうひとつ大きく異なるのは、乾燥して藁となった株の存在だ。稲を刈りとったあと、田には切り株が残る。従来の農法では、田を耕す際、この切り株を根ごとすきこんでしまった。すると、乾燥して藁となった株の葉が土中で腐り、有毒なメタタンガスを発生させてしまうのである。そのこともあって、何度も田を耕す必要があったのである。

ところが、自然耕農法の場合は、田を耕さないため、株をすきこまずに、そのまま残す。ちょうど上の写真のような状態だ。

この状態で水を引き入れると、微生物の働きで藁が自然分解し、サヤミドロという藻が大量に発生する。この藻が、水中で酸素を作りだし、水を浄化。プランクトンを育て、ひいては、これまで述べてきたような小動物が増えることにつながるのである。

藁だけではなく、土中に残った根もまた、自然分解する。こうした一連の流れをくり返すことによって、稲の力で田を自然に耕すのである。

田に発生するサヤミドロという藻は、田を覆う緑の絨毯となる。よく見ると、このサヤミドロの上

超★新★情★報

●**超権カグローバル・ゲーム** 新刊!
 笹川英著 爬虫類DNAと人類支配の秘密
 クリントンはプッシュ当選に協力した。なぜか？
 インド大地震は爬虫類の地下文明による地上世界乗っ取りの始まりか？
 工学社 B6版200ページ・1,600円

●**ガンは寄生虫が原因だった!**
 笹川英著 最新情報を加えた増刷版!
 ガンを消滅させる薬草の秘密。
 なぜ寄生虫が体にいいなどと言うウソがまことしやかに報道されているのか？欧米の自然療法家たちは寄生虫の害に気付いている。寄生虫体内に潜むウィルスと細菌の対処法。
 たま出版 B6版225ページ・1,300円

●**ガンは伝染する!**
 笹川英著 寄生虫は宿主をマインドコントロールする!
 ガンや糖尿病は実は伝染病だった。なぜこの単純な情報が抑圧されるのか？虫歯治療は命がけ。虫歯治療から奇形児出産!歯医者に行くと性格が変わる!金属汚染の取り方。
 文芸社 B6版210ページ・1,300円

●**カナン** 新刊 歴史研究
 ユースタス・マリンス著 闇の権力者追求第一人者「300人委員会」は作り話だった。世界の支配者はシオニスト・ナチ党だった!カナン人の秘密を知らずに歴史を語るな!
 ラ・テール出版社 B6版285ページ・1,600円

●**常識のマインドコントロール**
 笹川英著 水河期大接近と④人口削減計画
 玄米食が危険になった理由。大豆製品は毒性?ガン体質の人に危険...?
 真相を暴露!第三次世界大戦は食料戦争!!
 工学社 B6版287ページ・1,600円

書籍送料

一冊の場合	本の値段プラス350円
二冊の場合	本の値段プラス400円
三冊以上の場合	送料は無料です

●**書籍購入の方はカタログ無料**

●**健康・薬・器・具・大・幅・値・下・は**

★**チャクラ開化用アロマテラピー**
 15,000円 (送料・税込み)

★**飲料水活性装置** (小型・電源不使用)
 ハナ・クローガ発明
 米国製・9,000円 (送料・税込み)

★**ザッパー** (小型乾電池で稼働するため安全)
 ハルダ・クラーク博士が発明した寄生虫・ウィルス・細菌駆除装置。小型、携帯可能
 米国製・45,000円 (送料・税込み)

★**ソーマ・ボード** (クリスタル使用・永く機能)
 小型・軽量・携帯可能・電池等不要・ピラミッドエネルギー
 食料添加物を中和・安全化する装置
 米国製・9,000円 (送料・税込み)

★**バイオエネルギー・ディスク**
 小型・軽量・携帯可能・電池等不要・ピラミッドエネルギー
 食料に組み込まれた有害な666の波動を除去
 米国製・9,000円 (送料・税込み)

郵便振替口座 00180-2-70019

加入者 ホームオパシー・自然療法研究会

商品について

商品到着より8日以内、未開封のもののみとさせて頂きます。

TEL 042-728-9027

FAX

ホームオパシー

自然療法研究会



▲冬の田。道をはさんで左が自然耕農法の田、右が一般の田。←自然耕栽培の株(下)と一般の株(上)。大きさも根の張り具合も違う。

をクモやカエルが行き交っている。藻によって酸素が作りだされ、生き物たちの隠れ屋ができて、プランクトンが生まれ、それを食べる小

動物が誕生するのだ。サイヤミドロの発生は、自然耕栽培でしか見られない。ほかの田では、藻を田に残さないからだ。藤崎さんは、この藻の発生に最初は仰天したという。稲に与えるべき栄養を、藻に取り取られてしまうのではないかと、必死になって除去したそうだ。

だが、岩澤さんは、これをあえて残すことにした。「稲が生長したときに田の水を抜くと、サイヤミドロが残ります。これが自然の肥料となるのです」このサイヤミドロが、田に本来の生態系を呼びもどすのに一役買った。

農薬も化学肥料も散布されない田は、小さな虫や動物のすまいに変わった。ドジョウやタニシは、川から水を引き込むときに、上流から流れてきたものが、この田で増えたらしい。そして、絶滅の危機にあるメダカが繁殖したのも、このサイヤミドロの力によるところが大きかった。「田植えと同時期に、メダカを30匹が1万匹に増えます。これはサイヤミドロが光合成して、酸素を吐きだしてくれるのが大きい。それと、サイヤミドロの細かい繊維質が、メダカの稚魚を外敵から守る役割を果たすようなのです。メダカを水槽に入れても増えません。これは、親が稚魚を食べてしまうからです。また、普通の田に入れると、増えるどころか、死んでしまいます。有機無農薬栽培の田で

も、こんなには増えません。ところがサイヤミドロが茂る田では、稚魚が細い繊維の中に入り、親からも守られる。水槽だと親になるのに5〜6か月はかかるのに、開放型の田だと5〜6週間です。卵も、水槽だと30〜50個しか産まないのに、田だと毎日100〜130個も産むのです」

自然耕栽培の田に放たれたメダカと、それ以外の環境に放たれたメダカとの間に、なぜこれほどの違いが生じるのか。もともとメダカは、田の水路で育つといわれる。小さく弱い彼らは、子孫を残すために日々大量の卵を産む必要があったのだろう。また、田に水が張られている期間が、決して長くはない。その間に素早く成長して、卵を産まねばならなかった。

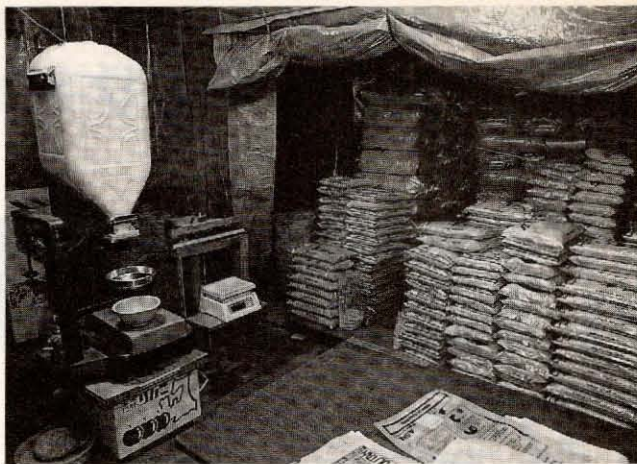
メダカは、日本で稲作が始まっ



た2000年前から、田の水を生命の源としてきた種である。とするならば、メダカもまた稲と同様に、自然耕栽培の田で本来の生命力を取りもどしたのではないか。

*** 田んぼにマガモが飛来した! ***

自然耕栽培の田は、藻の発生から始まり、ドジョウ、タニシ、カ



↑千葉県佐原市で農業を営む藤崎芳秀さんと、自宅にある貯蔵庫と精米機。米の注文があると、ここで精米して発送する。



宮城県蕪栗沼は、たまたま残った湿地だった。もともと、その一部は埋め立てられ、田にもなっていた。しかし、頻発する水害と、おりからの減反政策のために、田を沼に戻すことになったのである。

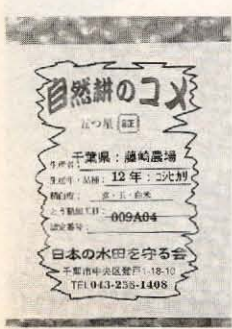
3年前、筆者は岩澤さんとともに宮城県田尻町を訪れた。田尻町には蕪栗沼という湿地があり、ここにマガモが飛来するのだ。かつては、日本各地に湿地があった。しかし高度成長期に、湿地は無用の長物としてどんどん埋め

られた、工場や住宅へと変化していった。だが、湿地こそは野鳥や小動物や魚の宝庫であり、それ自体がひとつの生態系だった。自然耕栽培の田であれば、田を耕すことはしないから、冬場でも水を張っておくことができる。そこにマガモを呼びもどそうという計画が立てられた。そして、この計画は昨年見事に成功した。現在、自然耕栽培を試みる農家

や白鳥までもが訪れるようになった。白鳥が田に舞い降りるという話は、すでに聞いていた。ドジョウやタニシが田に生息していることを、鳥たちも自然に感知するらしかった。

土地を埋めたとてという話はよく聞か、いったん田にした土地を沼に戻すという例は、おそらく日本で初めてだろう。このようにいきさつで沼に戻された湿地に、マガモが飛来するようになったのである。ここにマガモが飛来するならば、田にも来るのではないか。実はマガモは、非常に警戒心が強い。湿地のように人が入りこまない場所をねぐらにし、早朝飛びたち、田に残った糞を食べにくるのだ。

手ごろな価格で入手できる自然耕農法のお米!



↑3つ星から5つ星までのランクをラベルに表示。→自然耕の米、4.5kg入り。



自然が回復する驚異の農法。この自然耕農法で作られた米は無農薬で粒も大きく、生産者自身が「うまい!」と太鼓判を押すほど上質のお米だ。そんなうまい米が、驚くほどの廉価で手に入られる。米は稲の年数によって3つ星から5つ星までに等

級分けされ、星の数が多いほど、味も上がるという。もっとも、3つ星であってもそのうまさは、普通のお米の比ではない。なお、店頭では販売されていないため、購入ご希望の方は下記までご連絡を。価格などの詳しいことは、ご連絡の際にお問い合わせを。

●「日本の水田を守る会」 〒260-0032 千葉市中央区登戸1-18-10 大熊ビル ☎043-238-1408 fax.043-238-1409

はまた全国で1000軒あまりである。岩澤さんが実験を開始して20年。この農法に自然の生態系を取りもどす力があるということが、最近ようやく知られるようになってきた。メダカが増えるようになったのも、まだ一昨年のことだ。「最初は、稲作にかかるコストを下げて、労働力を減らすことが目的でした。近代以降の農業は、化学肥料や農薬散布、機械化によるガソリンの大量使用など、大きなコストがかかる消費型の農業です。」

この自然耕栽培、今年も琵琶湖周辺の田で、琵琶湖浄化作戦の一環として試みられる。

何十年後かには限界を迎えるでしょう。また、農家も高齢化が目立ち、減反政策で米が安くなります。そうした状況の一助となれば、という気持ちでした。ところがやってみると、ドジョウやメダカが戻ってきました。これには驚き、そちらのほうが大切だということになった。この田から「メダカの学校を広げたい」と思っています。」

この自然耕栽培、今年も琵琶湖周辺の田で、琵琶湖浄化作戦の一環として試みられる。